

2025年度第2四半期 決算説明会

Logisnext Solutions - Enhancing Intralogistics Worldwide



2025年11月26日
三菱ロジスネクスト株式会社



2025年度第2四半期 決算概要

三菱ロジスネクスト株式会社
取締役 常務執行役員 CFO 宇野 隆俊

1. 25年度第2四半期決算のポイント

フォークリフト 市場環境

- 国内の需要は引き続き安定的・堅調に推移
- 米州では、テクノロジー分野においては好調基調ではあるものの、製造業においては関税政策による景気の先行き不透明感からか、活動が低下。これに伴い物流機器需要は減少推移
- 欧州の需要は一時減少傾向が見られたものの緩やかに持ち直し、アジアにおいては堅調に推移。中国は景気減速の中にあっても物流機器需要は堅調

当社の状況

- 前期に実施した、欧州の一部工場機能閉鎖による生産集約・中国の販売事業再編の効果が寄与。欧州は市場需要の持ち直しもあり緩やかに伸長
- 主力である米州においては、米国関税の適用範囲拡大により一層需要が鈍化。大口顧客の発注先延ばしや価格競争激化等もあり、関税によるコストアップを販売価格に転嫁しきれず。米州市場は極めて厳しい事業環境へ

業績概要

- 売上高は、欧州・アジアでの増収があったものの、為替の円高影響、米州での減収が響き、前年同期比で減収
- のれん等償却前営業利益は、米州におけるエンジン車を中心とした需要減、競争環境の激化、受注確保のための販売コスト増等により、前年同期比で減益
- 当期純利益は、前年度において固定資産の売却に伴う特別利益が計上されたことの反動に加え、当年度は国内エンジン製造子会社において北米での認証遅延にかかる偶発損失に備えるための引当金を追加計上したこと等が響き、赤字転落

売上高
3,177.4億円
YoY -3.3%

営業利益(※)
122.6億円
YoY -40.9%

当期純損失
-7.1億円
YoY —

2. 決算ハイライト

(単位：億円)

	FY24 2Q	FY25 2Q	前年同期比増減	
売上高	3,285.4	3,177.4	-108.0	-3.3%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	207.4 6.3%	122.6 3.9%	-84.8	-40.9%
のれん等償却	52.9	42.2	—	—
営業利益 (営業利益率)	154.4 4.7%	80.3 2.5%	-74.1	-48.0%
経常利益 (経常利益率)	123.3 3.8%	49.9 1.6%	-73.4	-59.5%
親会社株主に帰属する 中間純利益 (当期純利益率)	99.7 3.0%	-7.1 -0.2%	-106.8	—
自己資本比率	24.2% ^{*1}	24.0%		
ROE	7.2% ^{*1}	-1.2% ^{*2}		

*1 FY24通期の数値

*2 年換算して算出

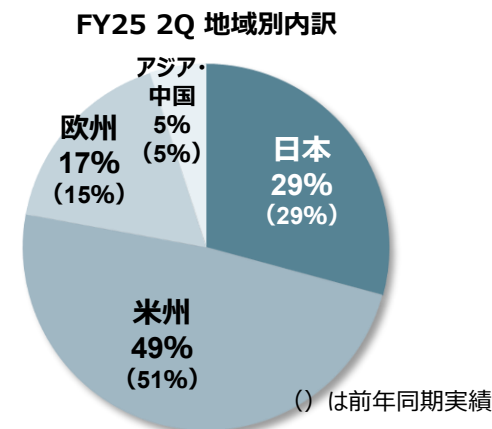
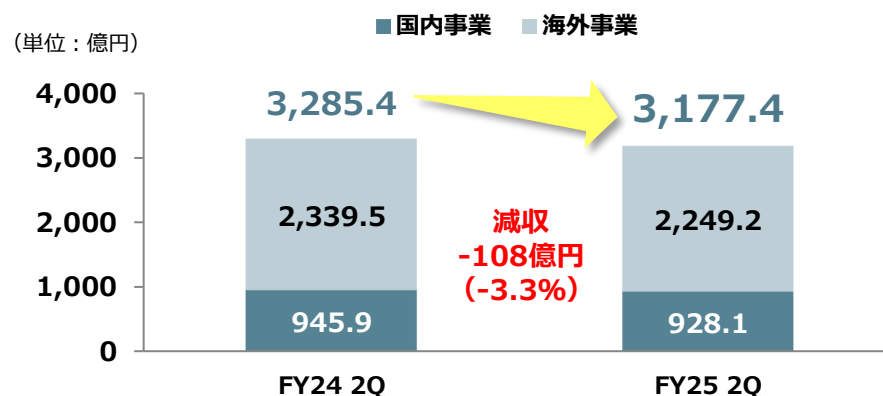
為替レート

USD	152.61円	146.06円
EUR	165.92円	168.04円
CNY	21.15円	20.30円

3. セグメント別業績

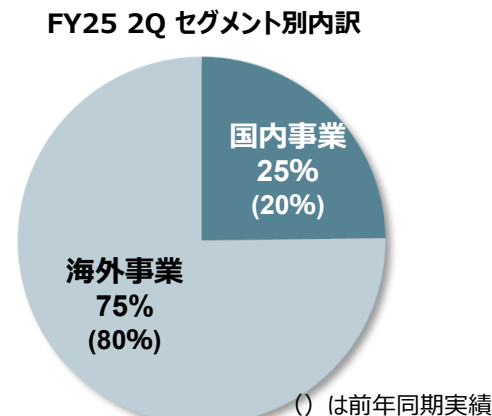
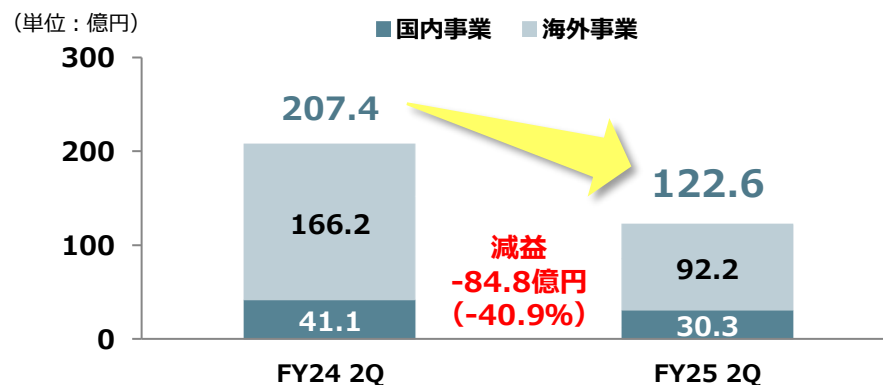
売上高

- 国内事業は、受注が堅調に推移、価格適正化の効果もあったものの、商流変更により一部製品が海外事業へ移管されたことで前年同期比は減収
- 海外事業は、欧州・アジアでの増収があったものの、為替影響に加えて主力の米州での売上の減少もあり減収



営業利益 (※)

- 国内事業は、国内販売においては堅調に推移、価格適正化の効果も寄与したものの、北米向け部品の供給が減少したことが響き前年同期比で減益
- 海外事業は、欧州・アジア・中国が増益となった一方で、米州において売上減に加え、受注確保のための販売コストの増加等が響き、前年同期比で減益

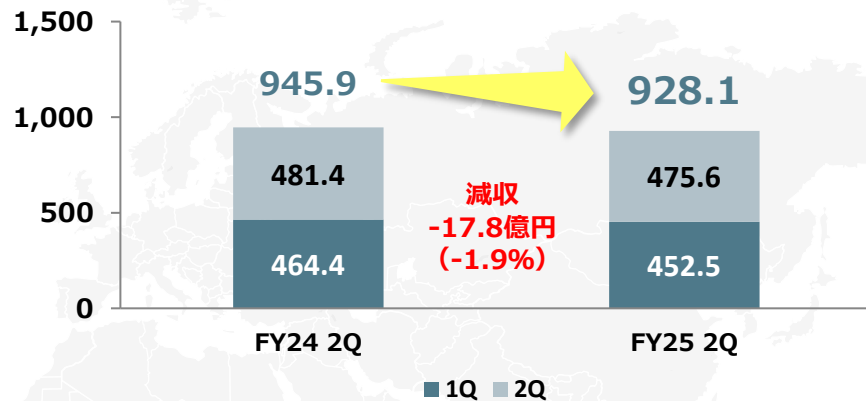


(※)のれん等償却前営業利益

4. 地域別売上高（為替影響含む）

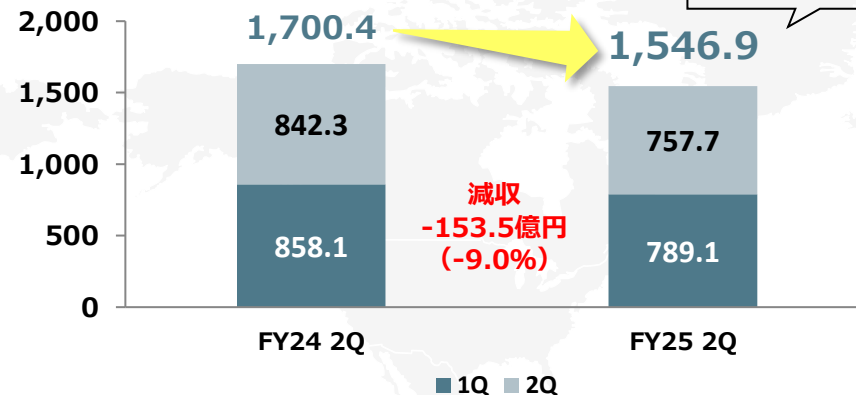
日本

(単位：億円)



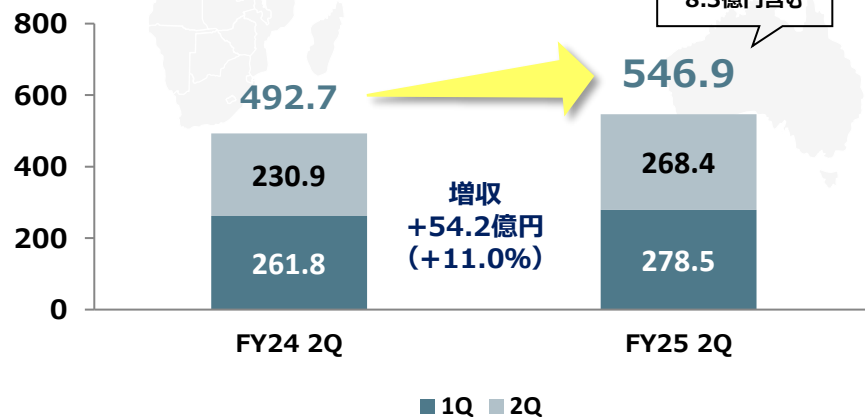
アメリカ

(単位：億円)



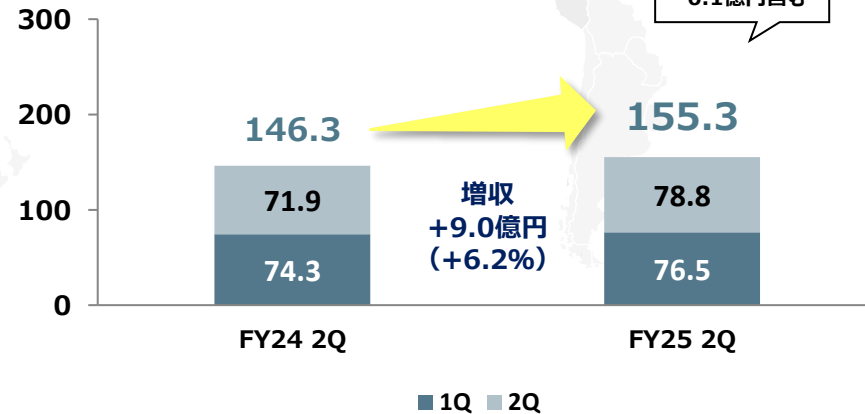
欧州

(単位：億円)



アジア・中国

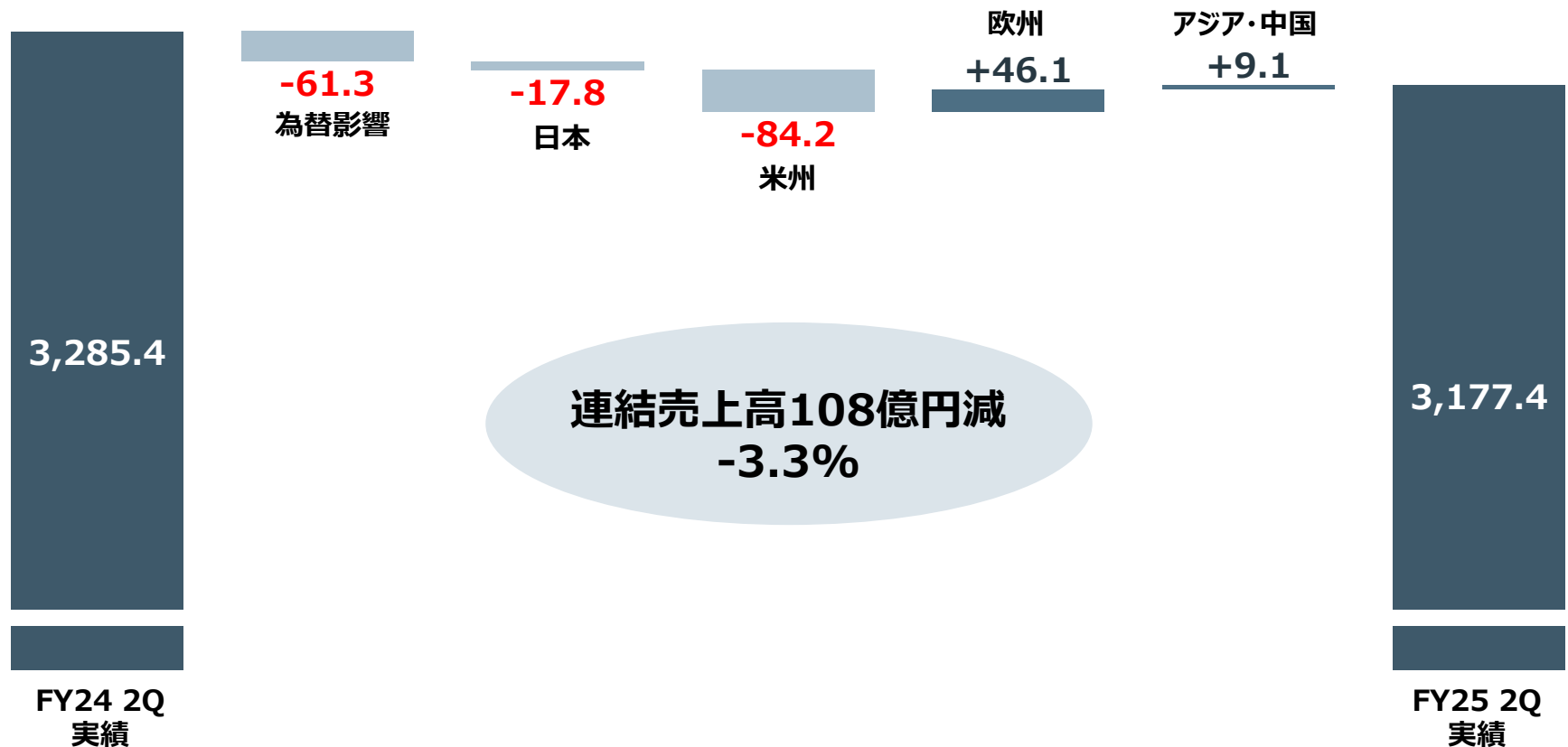
(単位：億円)



5. 連結売上高増減要因（前年同期実績対比）

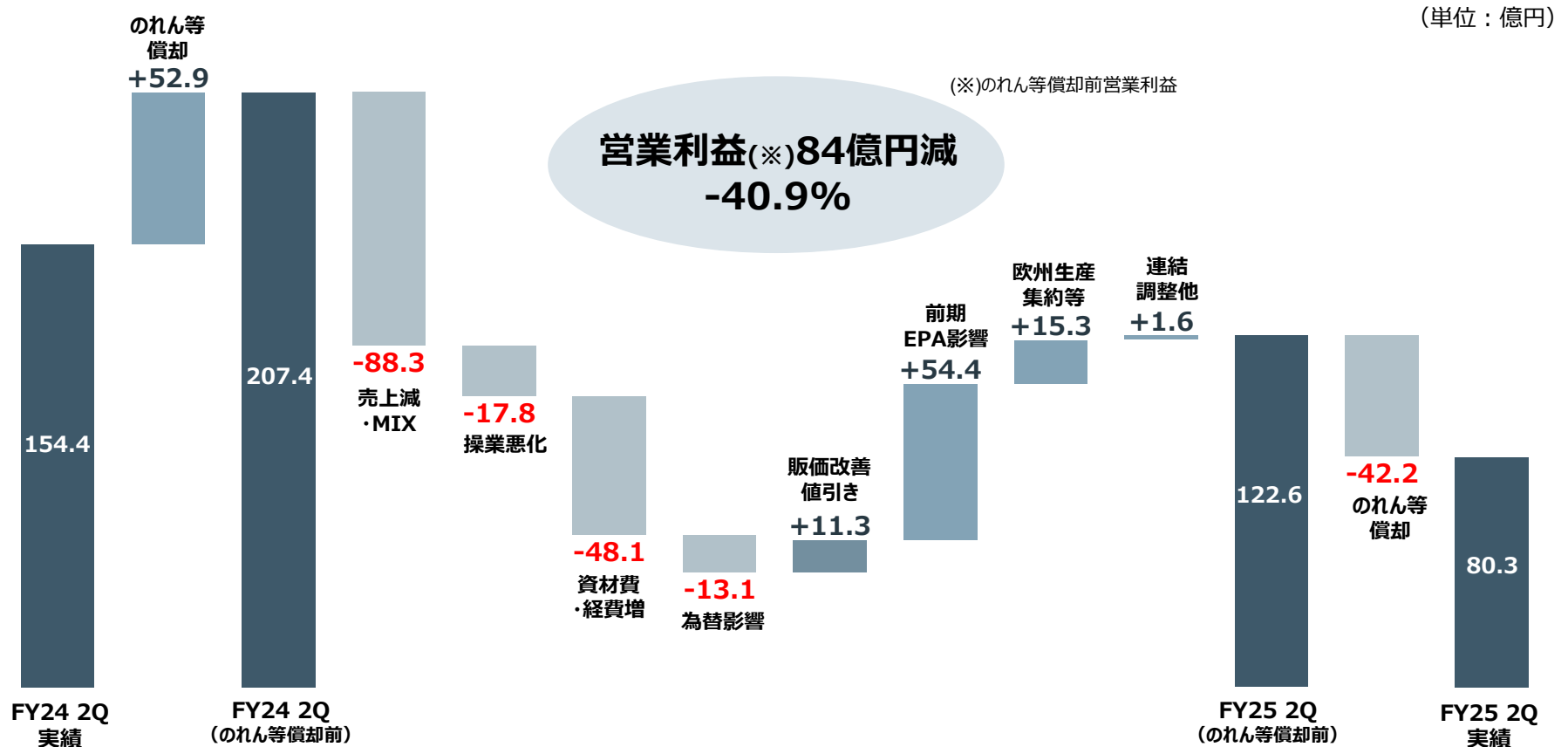
- 欧州、アジア・中国は前年同期比で増収だったものの、円高進行による為替影響に加え、日本・米州の減収が響き、前年同期比で減収

（単位：億円）



6. 連結営業利益^(※)増減要因 (前年同期実績対比)

- 主力である米州においては、米国関税の影響により更なる需要鈍化が生じ、大口顧客の発注先延ばしや競争激化等もあり、米国関税等によるコストアップを販売価格に転嫁しきれない状況。その結果、エンジン認証取得遅延で一時出荷停止のあった前年同期と比較しても、販売台数は低下
- 前期に経営資源の選択と集中を図るために実施した、欧州の一部工場機能閉鎖による生産集約・中国の販売事業再編の効果が寄与。欧州は市場需要の持ち直しもあり前年同期比で増益

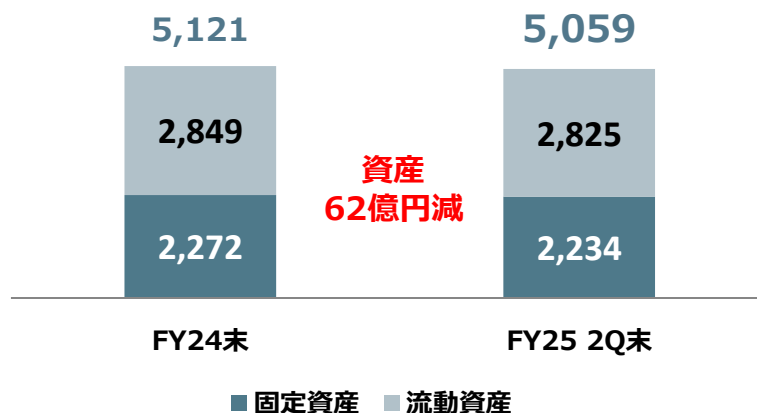


7. 連結貸借対照表

- 資産、負債は減少したものの、当期純損失による利益剰余金の減少があったことで、自己資本比率は24.0%と前期末よりわずかに悪化

(単位：億円)

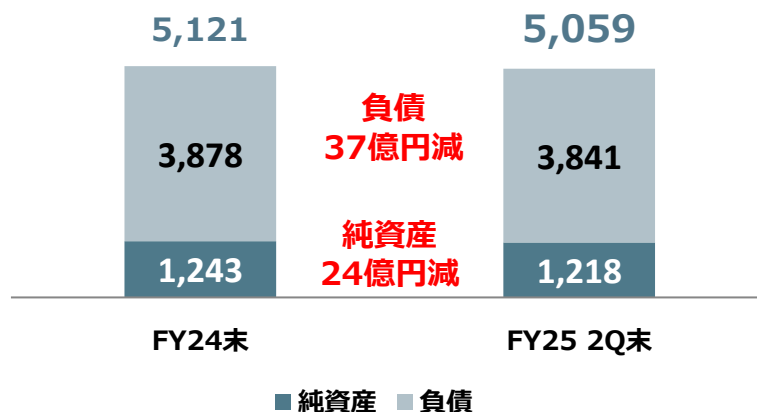
資産



項目	FY24末	FY25 2Q末	増減
流動資産	2,849	2,825	-23
(有形固定資産)	1,769	1,766	-2
(無形固定資産)	232	193	-38
(投資その他)	270	274	+3
固定資産計	2,272	2,234	-37
資産合計	5,121	5,059	-62

流動資産：減
売上債権の減少等
固定資産：減
のれん等の償却による減少等

負債／純資産



項目	FY24末	FY25 2Q末	増減
流動負債	1,936	1,884	-51
固定負債	1,942	1,956	+14
負債合計	3,878	3,841	-37
純資産計	1,243	1,218	-24
負債・純資産合計	5,121	5,059	-62

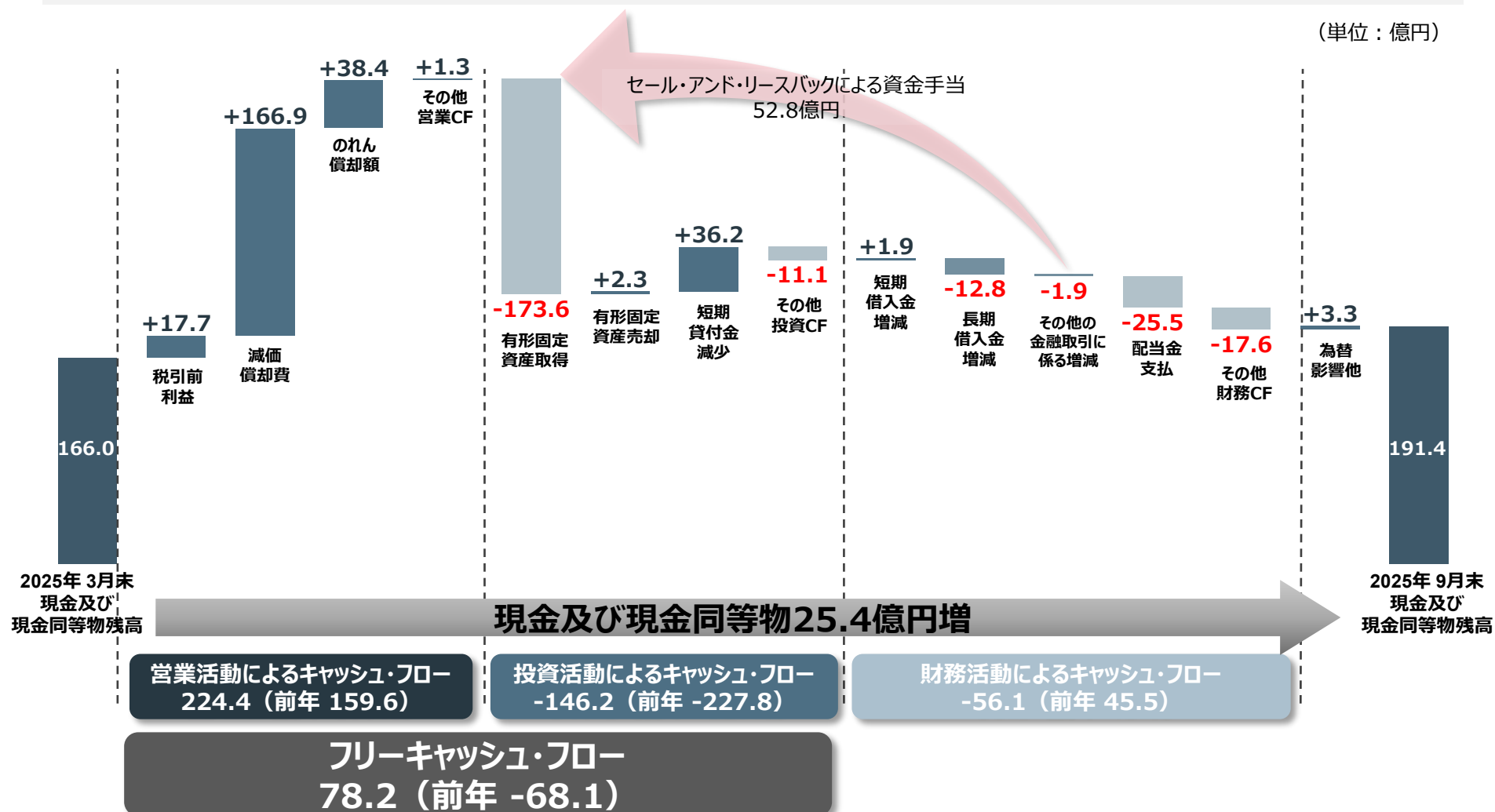
負債：減
買掛債務の減少等
純資産：減
利益剰余金の減少

FY24 4Q末レート：USD=149.52円 EUR=162.08円 CNY=20.59円
FY25 2Q末レート：USD=148.88円 EUR=174.47円 CNY=20.88円

8. キャッシュ・フローの状況

- 営業C/Fは税引前利益が減少した一方、運転資本が良化に転じたことが寄与、224.4億円と前年同期より良化
- 投資C/Fは有形固定資産取得額の減少、短期貸付金の払い出しにより-146.2億円と前年同期より支出減少
- フリーC/Fは営業C/Fの良化と、投資C/Fの減少により78.2億円と前年同期より好転

(単位：億円)



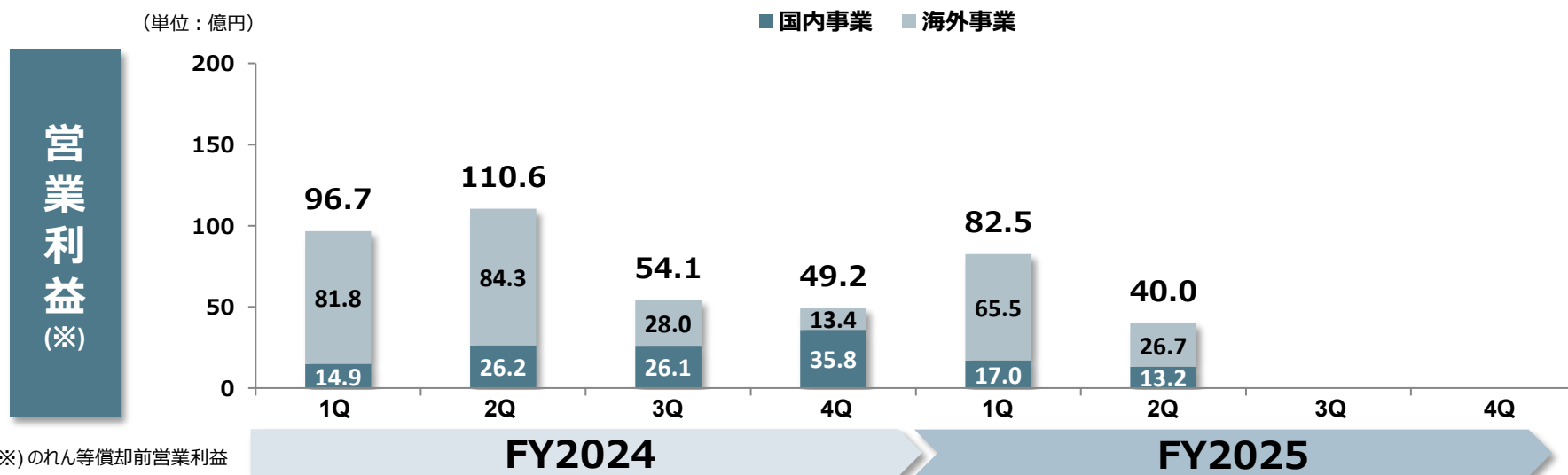
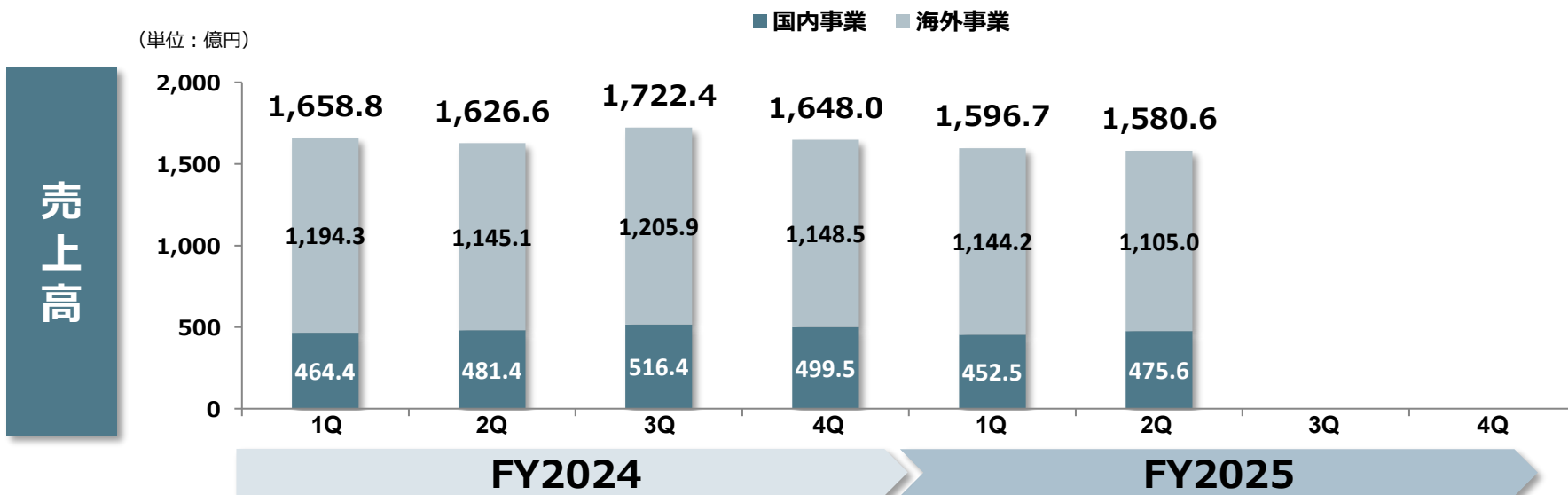
【参考資料】主な経営指標

	指標	算式	FY24		FY25 2Q ^{*1}		コメント
				のれん等償却前*2		のれん等償却前*2	
総合	総資本利益率（ROA）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	1.7%		-0.3%		業績悪化により四半期純利益が減少したことで指標が悪化
	自己資本利益率（ROE）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	7.2%		-1.2%		
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	3.1%	4.7%	2.5%	3.9%	米州での売上減等が響き、指標が悪化
	売上高当期純利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	1.3%	2.7%	-0.2%	1.1%	四半期純利益の減少により、指標が悪化
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.3回		1.2回		
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	7.2回		7.2回		
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	4.1回		3.9回		
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	24.2%		24.0%		
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	1.9倍		1.9倍		
株式関連	1株あたり利益	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	81.26円		-13.32円		
	株価収益率（PER）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$	26.2倍		—		株価： 2025年3月末：2,127円 2025年9月末：1,815円
	株価純資産倍率（PBR）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$	1.8倍		1.6倍		

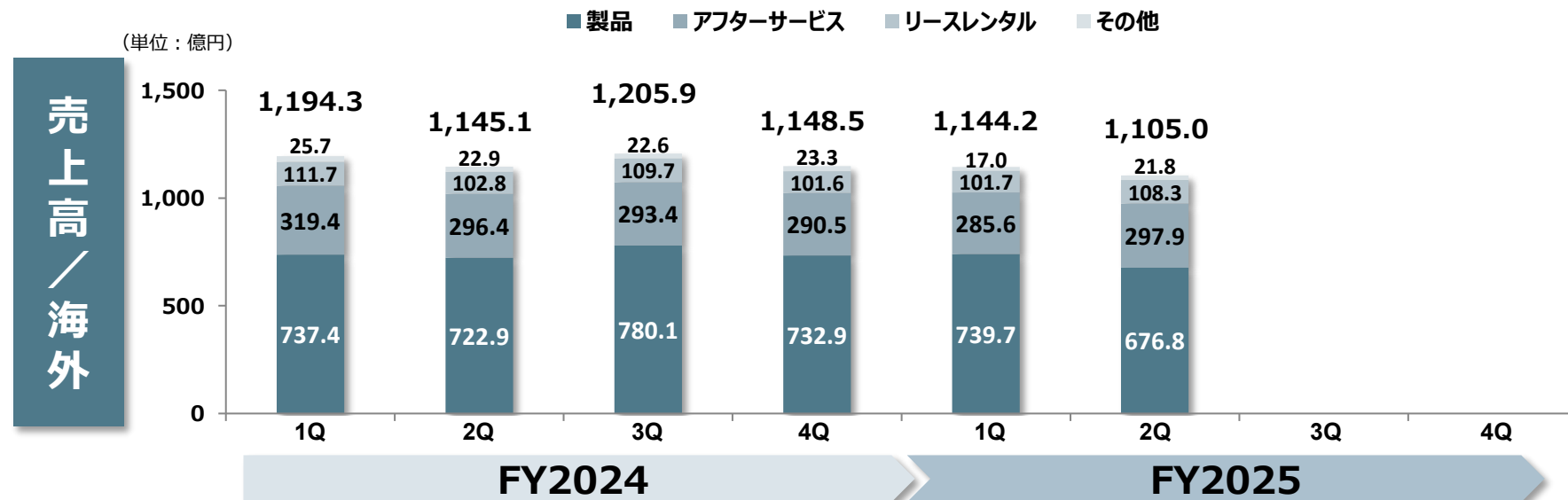
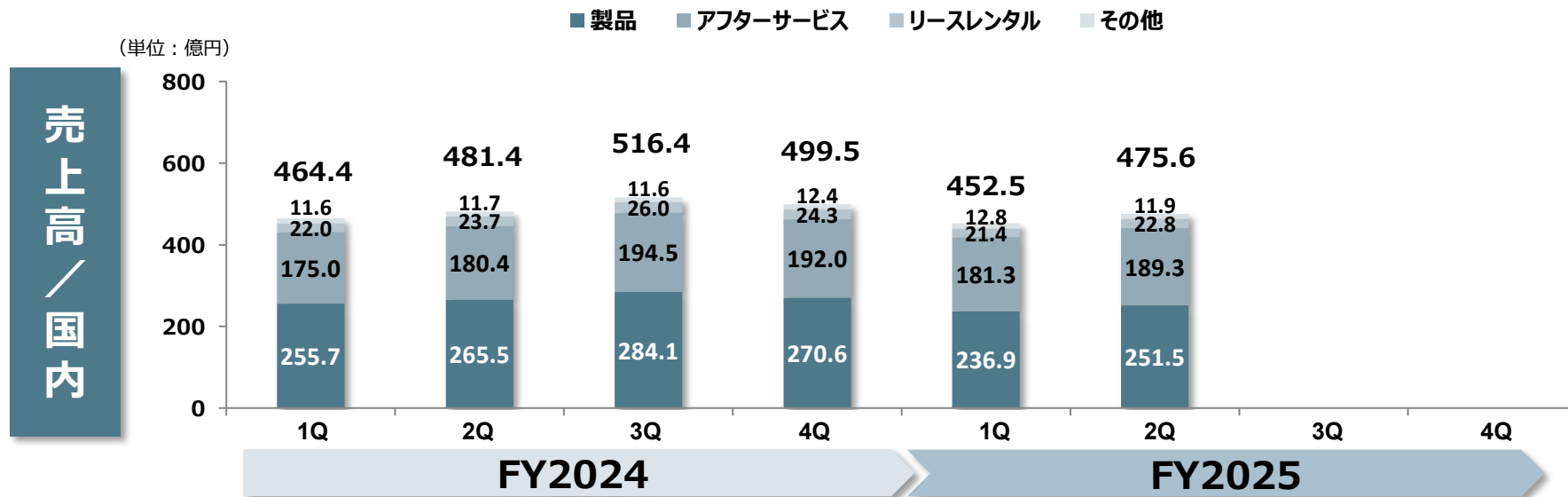
*1 PL項目は年換算して算出

*2 参考値

【参考資料】四半期推移 (セグメント別売上高・営業利益)



【参考資料】四半期推移 (カテゴリー別売上高)



【参考資料】株価の推移

Logisnext

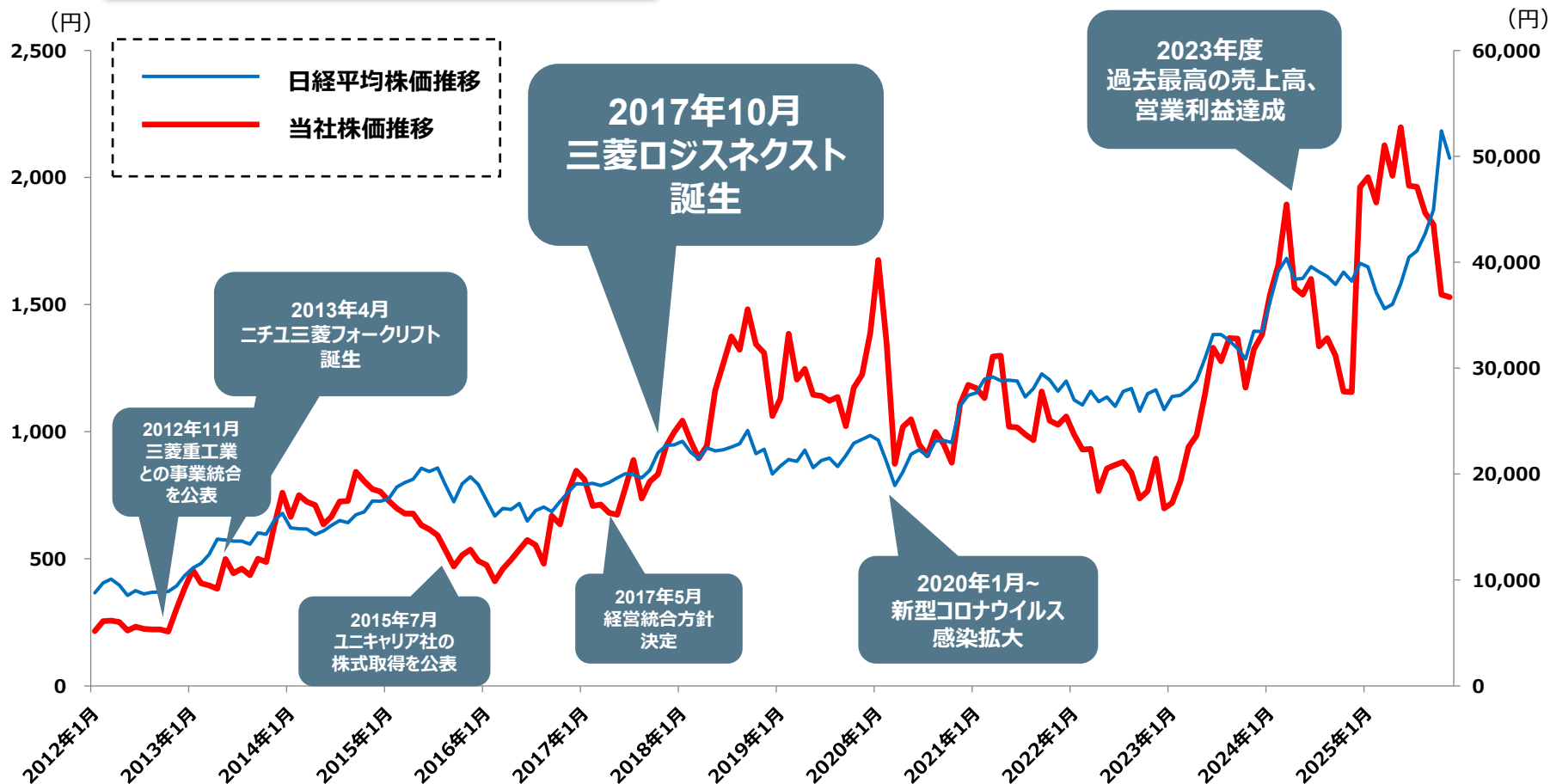
2025年

年初来高値：2,234円（3月19日）

年初来安値：1,521円（11月19日）

<2025年11月21日現在>

11月21日終値
1,530円



中期経営計画『LT26』進捗状況

三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役社長 CEO 間野 裕一

1. 25年度業績予想のポイント

フォークリフト 市場環境

- 国内は25年度も比較的堅調に推移する見込み
- 米州においては米国関税232条の適用範囲拡大により、更なる需要鈍化が生じ、大口顧客の発注先延ばしもあり極めて厳しい事業環境となっている
- 一方、欧州は緩やかな持ち直しを継続、アジア・中国においても物流機器需要は堅調に推移する見込み

当社の状況

- 米州は、需要鈍化等により、エンジン認証遅延で一時出荷停止のあった前年同期と比較しても販売台数は低下。加えて、価格攻勢が増す韓国勢との販売競争が激化し、米国関税等によるコストアップを販売価格に転嫁することがますます困難な状況へ
- 日本、アジアは引き続き堅調。欧州においては販売台数の増加に加え、工場機能の閉鎖を伴う生産集約の効果の刈り取りにより、増益を見込む

業績予想 概要

- 売上高は、国内市場、欧州等が堅調に推移すると見込むものの、米州事業の急激かつ想定以上の悪化が響き、期初予想比減収
- のれん等償却前営業利益は、売上高の減少に加え、北米の競争環境悪化による値引き増、MIX・操業悪化等による影響に加え、関税コストを価格転嫁しきれないことが響き、期初予想比減益
- 当期純利益は、営業利益の減少に加え、国内エンジン製造子会社において、特別損失として偶発損失引当金を追加計上したこと等が響き、期初予想比大幅減益

売上高

6,350億円
期初予想比 -5.9%

営業利益(※)

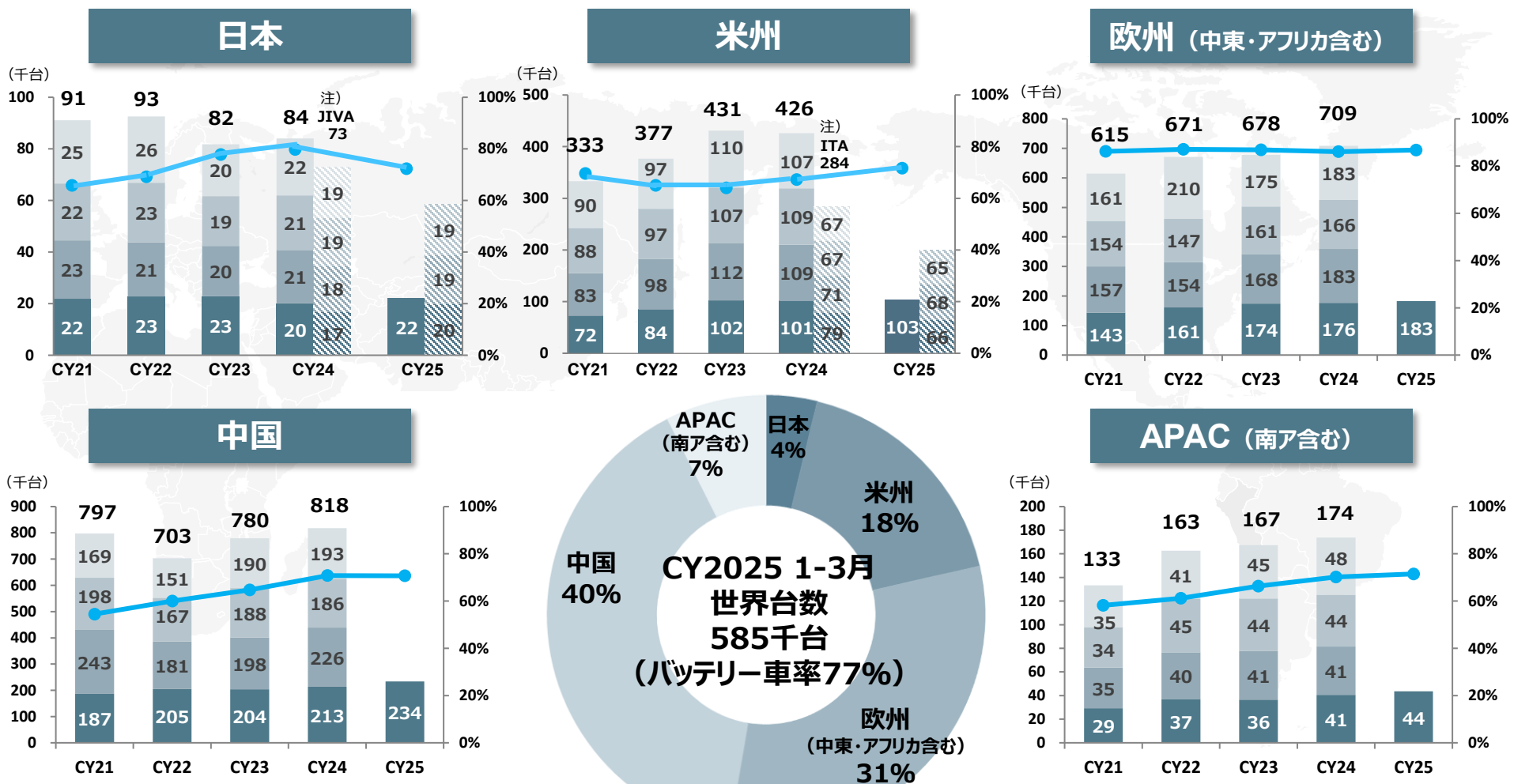
225億円
期初予想比 -46.4%

当期純利益

10億円
期初予想比-94.1%

2. 市場環境 / フォークリフト市場動向【出荷】

- 2025年1~9月において、日本(JIVA統計)は前年同期比で若干増加、米州(ITA統計)は米国関税影響による需要鈍化が響き出荷が減少傾向



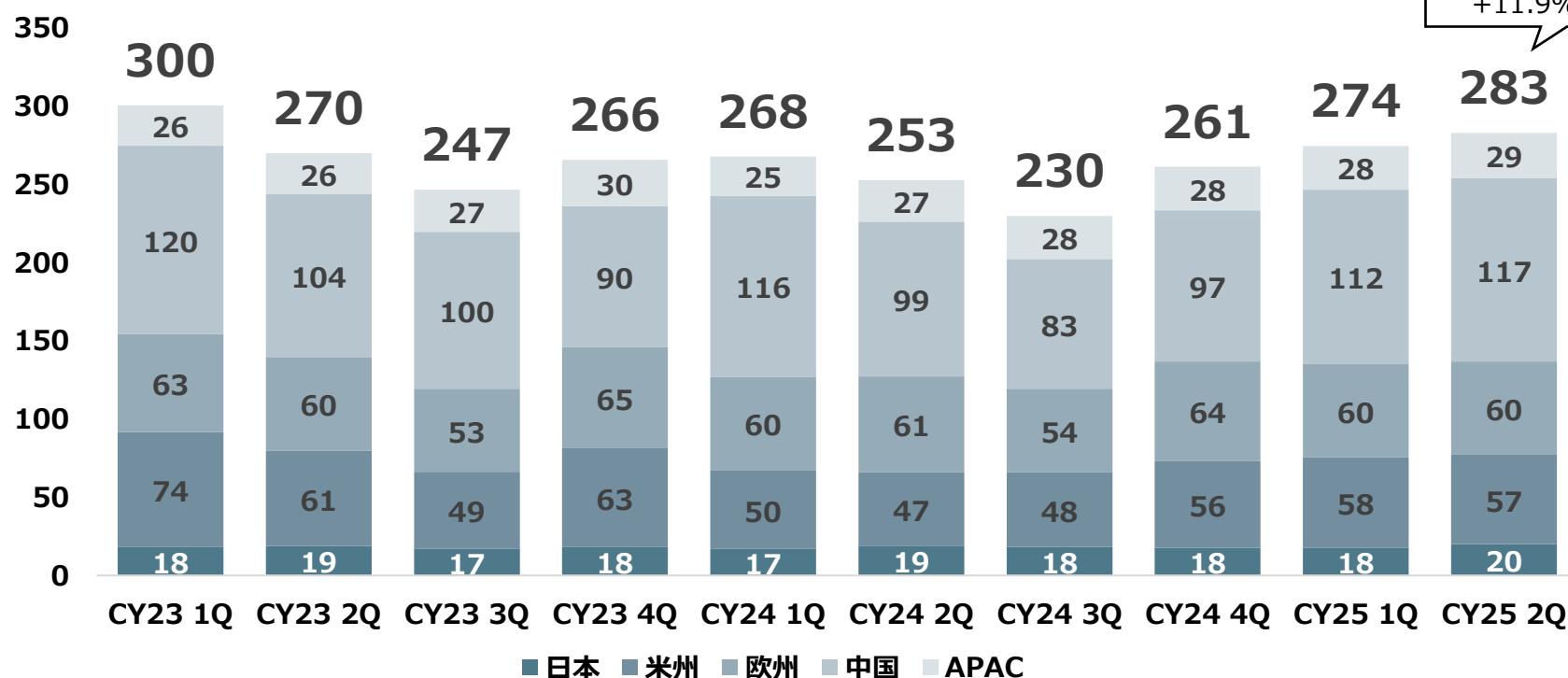
注) WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1~12月のCYで集計
 上記によるWITS統計開示遅延の為、日本はJIVA、米州はITAより集計。他地域は各国の統計データ未開示の為、CY2025 2Q以降は空白
 なお、JIVAはWITSとは基準が異なり、一部の車種が含まれていない。ITAは中国・韓国メーカーの米州内販売台数が含まれていない

3. 市場環境 / フォークリフト市場動向【受注】

- 受注は底打ちの兆しを見せており、前年同期比で+11.9%
- 米州は、CY25-2Qでは駆け込み需要もあったものの、今後関税による物価上昇や、企業の投資マインド悪化等により受注は減速する見込み

受注台数 (ClassⅢ(※) 除く)

(単位：千台)



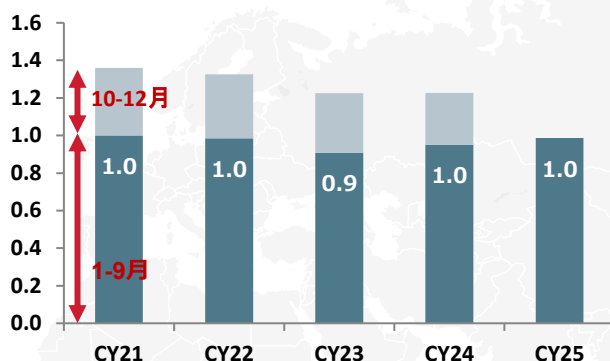
(※) ClassⅢ：自走式電動小型リフト

注) WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1～12月のCYで集計

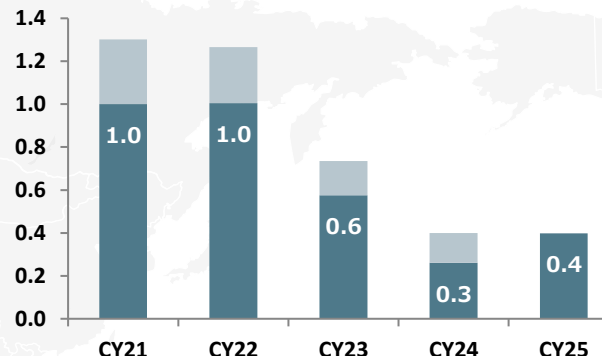
4. 当社受注状況（指数表示）

- 日本は比較的堅調に推移。米州は、前期のエンジン認証問題や代理店の在庫調整の反動に加え、関税価格転嫁前の駆け込み需要等もあり若干の持ち直し。但し、年度末に向けて減速傾向

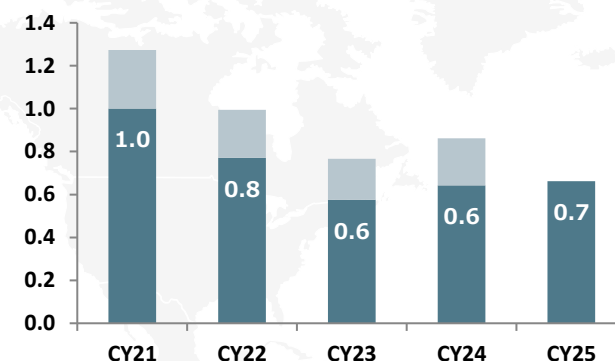
日本



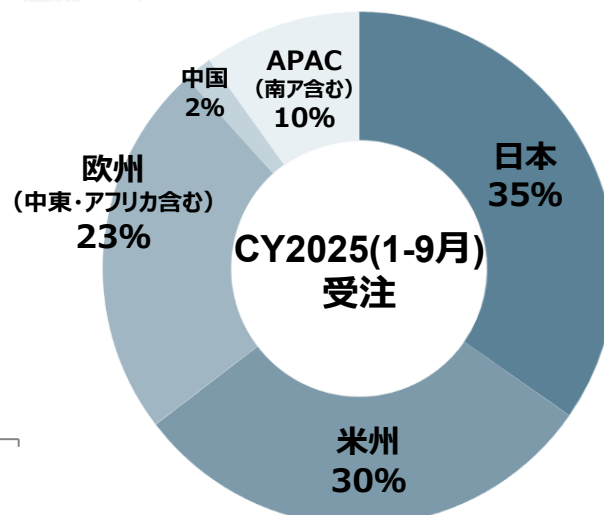
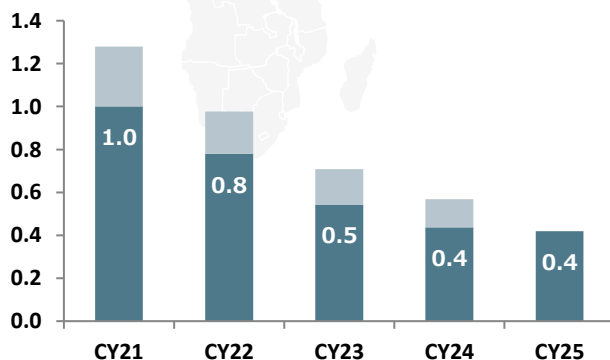
米州



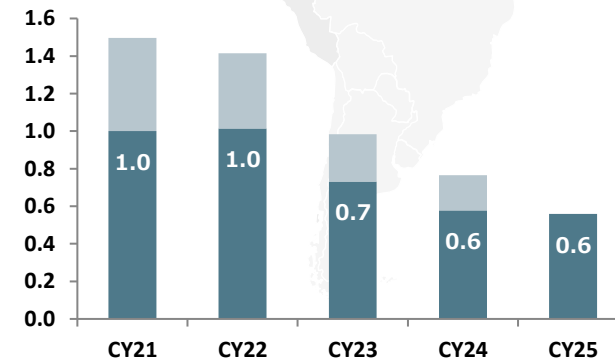
欧州（中東・アフリカ含む）



中国



APAC（南ア含む）



注）CY2021 1-9月=1として指数化。小数点以下の差により、同じ数値表記であっても見かけ上グラフの高さに違いが生じることがある

5. 25年度業績予想（修正）

(単位：億円)	FY24実績	FY25期初予想 (2025.5公表)	FY25修正予想 (2025.8公表)	FY25修正予想 (2025.11公表)	期初予想 VS 修正予想増減	
販売台数	92千台	95千台	90千台	87千台	-8千台	-
売上高	6,655.9	6,750	6,500	6,350	-400	-5.9%
営業利益（のれん等償却前） （営業利益率）	310.8 (4.7%)	420 (6.2%)	330 (5.1%)	225 (3.5%)	-195	-46.4%
のれん等償却	102.0	90	90	85	-	-
営業利益 （営業利益率）	207.6 (3.1%)	330 (4.9%)	240 (3.7%)	140 (2.2%)	-190	-57.6%
経常利益 （経常利益率）	148.6 (2.2%)	270 (4.0%)	180 (2.8%)	85 (1.3%)	-185	-68.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益 （当期純利益率）	86.6 (1.3%)	170 (2.5%)	110 (1.7%)	10 (0.2%)	-160	-94.1%
自己資本比率	24.2%	26.1%	25.0%	24.0%	-	
ROE	7.2%	13.5%	8.9%	0.8%	-	
1株あたり配当	24円	24円	24円	-	-	

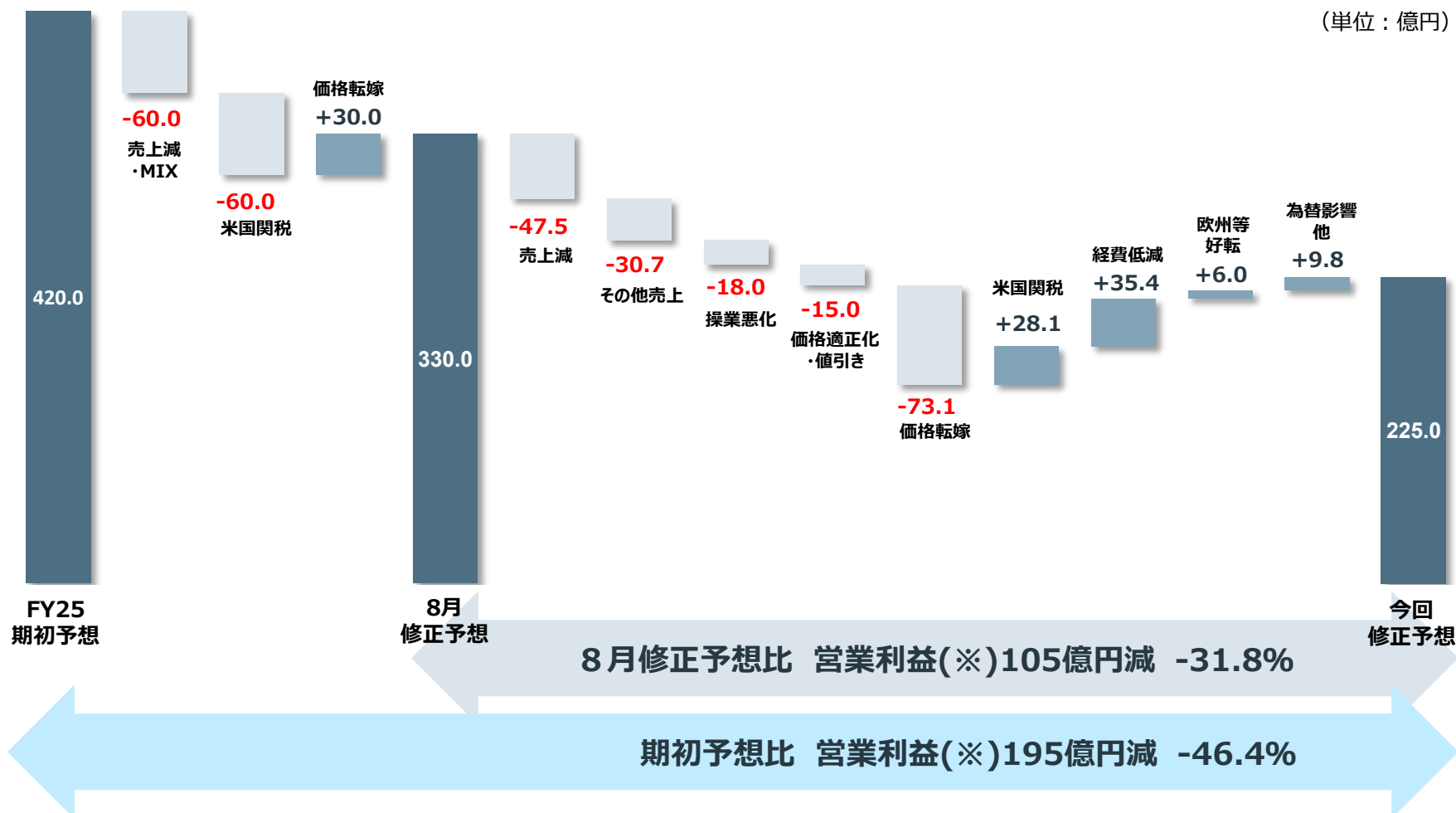
為替レート

USD	152.54円	145.00円	同左	同左*1
EUR	163.72円	155.00円	同左	165.00円*1

*1 FY25下期計画レート

6. 25年度業績予想（修正）

- 米州での関税影響での需要減少による売上減やそれに伴う操業悪化、価格競争激化による価格転嫁減や値引き、販売促進費の増加等による影響を欧州等他地域の好転や経費抑制でカバーしきれず、前回予想比で減益



7. 『LT26』 取り組み内容

中期経営計画(FY24～FY26)

～ 私たちがお客様の物流シーンを変える、社会を変える、私たちも変わる ～

“Logisnext **Transform 2026**” (呼称『LT26』)

基本戦略

産業車両領域での成長

- グッドアラート（危険行為アラートシステム）販売開始
- 中国製フォークリフト対抗策
- 電気式カウンター車ラインアップ拡充
- オートメーションデモセンターの開設とバッテリー車新工場の稼働

物流ソリューション事業の飛躍

- トラックへの荷積み自動化の進化
- ビジネスパートナーとの協業

企業体質改善の継続と事業構造改革への挑戦

- 日本および米州における業務とシステムの統合
- 真のグローバル経営体制の構築
- EXPO2025 大阪・関西万博への協賛
- 『LT26』非財務目標に対する取り組み

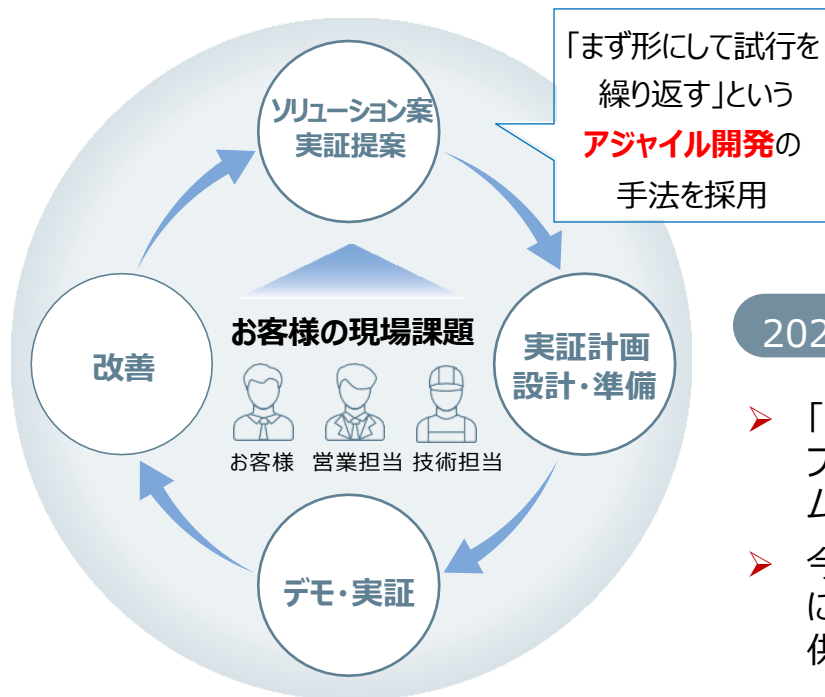
8. Topics 1 - 産業車両領域での成長

安心・安全

現場の課題に深く寄り添う「LogiS（ロジエス）」活動による課題解決

- 営業・技術がワンチームとなり、お客様と一体となって安心・安全に関する現場課題に取り組む「LogiS（ロジエス）活動」を2023年9月から開始
- お客様の現場で、直接声を聞きながら課題解決を試みることで、新しい機能やシステムを開発こうした成果を汎用機能としてパッケージ化し、今後広く展開

LogiS（ロジエス）活動による課題解決のプロセス



- 2024年6月 OmniEyeのエンジン車(ERSIS)への導入
- 2024年12月・2025年1月 高積み運搬検知の実証実験
- 2025年1月 危険行為ASプレミアムパッケージの導入
- 2025年3月 プラットフォーム端検知システムの実証実験
- 2025年3月 危険行為ASスタンダードパッケージの実証実験

2025年6月 グッドアラート（危険行為アラートシステム）販売開始

- 「不安全・不注意」操作に対し、フォークリフトに装着されたアラーム（スピーカー）で音声を発信
- 今後も高まる安心・安全ニーズに対し、高付加価値製品の提供を推進する



9. Topic 2 - 産業車両領域での成長

脱炭素

中国製フォークリフト対抗策

- MLSH *1主導により、ローエンドモデルの2.5t LiB専用車（FBX）を開発
- 5月に中国内で受注を開始。中国メーカーと同等の価格競争力を有しており、今後はAPAC地域での販売拡大も目指していく

*1 MLSH：三菱物捷仕叉車製造（上海）

初号車出荷の様子



3ブランドを準備



試乗会の様子



脱炭素

電気式カウンター車ラインアップ拡充

- 欧州市場向け電気式カウンター車「Evolt」のシリーズ開発・販売地域拡大を目指し、北米専用モデルとして「**Evolt Cushion**」を開発。2025年度4Qの量産開始に向け生産準備中
- 北米、日本、中国市場をターゲットに**エンジン車フレーム、マストをベースとしたバッテリー車開発**を推進中

Evolt Cushion



エンジン車ベースの
バッテリー車



【北米客先でのPoC車稼働】



【開発中の様子】

10. Topic 3 - 産業車両領域での成長

自動化・
自律化

脱炭素

オートメーションデモセンターの開設とバッテリー車新工場の稼働

- フォークリフトや無人搬送車などの機器を組み合わせた最先端の自動化技術を、お客様が「見て、触れて、体感」できる場として**各拠点にデモンストレーションセンターを開設**
- 2035年のグループ電気車販売比率90%の達成に向けMLAヒューストン^{*1}工場のバッテリー車新工場、MLEフィンランド新工場も**稼働開始**

価値創造の源泉



- 2022年3月 MLEフィンランド ^{*2}にAGVデモンストレーションセンター 開設
- 2023年1月 MLAマレンゴ^{*3}にAGVデモンストレーションセンター 開設
- 2024年11月 本社・京都工場内にオートメーションデモセンターを開設

- 2025年、MLAヒューストン工場に「Customer Experience Demo & Training Center」を建設、2035年のグループ電気車販売比率90%の達成に向け電気車拡販を加速すべく、顧客向けのデモセンター及び代理店向けのトレーニングエリアを開設



【外観】

【内部イメージ図】



- MLAヒューストン工場のバッテリー車新工場
- MLEフィンランド新工場も稼働開始



【MLAヒューストン工場】



【MLEフィンランド工場】

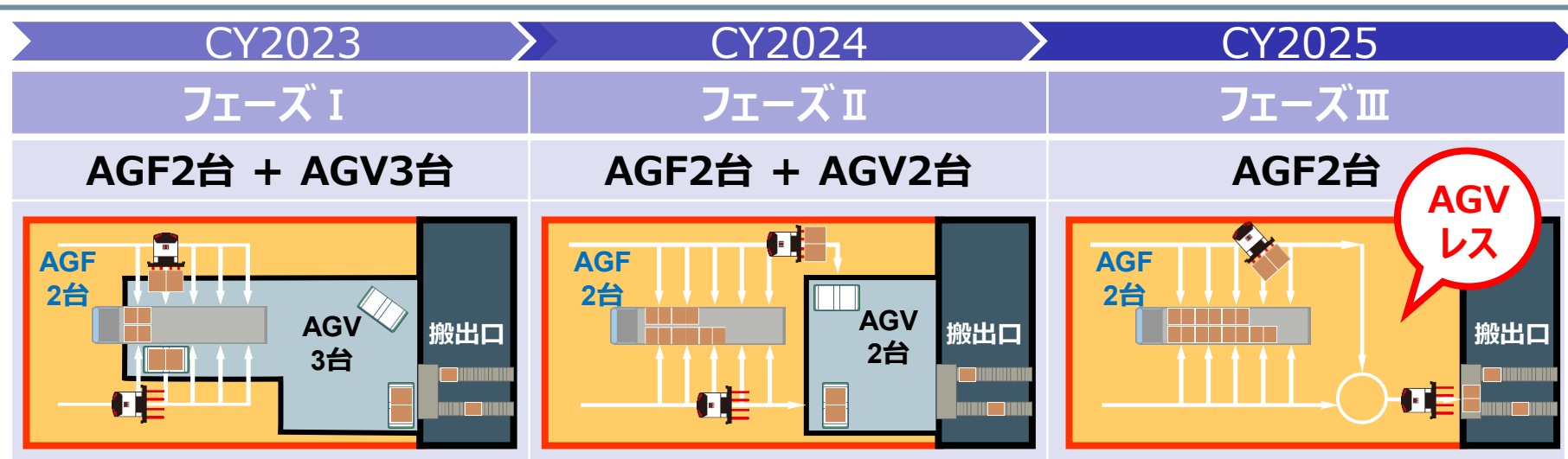
^{*1} ^{*3} MLA : Mitsubishi Logisnext Americas Inc. (^{*1} Houston, ^{*3} Marengo)

^{*2} MLE : Mitsubishi Logisnext Europe Oy (Finland)

自動化・
自律化

トラックへの荷積み自動化の進化

- 2022年より鴻池運輸株式会社と共同で実施していた無人フォークリフトを活用したトラックへの荷積み自動化システムの実証実験を完了し、2024年3月から実運用を開始
- 実運用後もシステムの改良を継続し、AGFの高性能化による「AGVレス」の実現を含む改修を行う
AGF2台 + AGV3台から、**AGF2台のみで16パレット積載の目標時間 15分以内を達成**



その他にも**数社様からトラック荷積み自動化の商談が進行中**。機能改善・信頼性向上開発を継続しながら、更なる自動化・自律化を推進していく



荷取りの様子



積み込みの様子

自動化・
自律化

ビジネスパートナーとの協業

- 当社が強みとする顧客接点を最大限に活かした“つなぐ力・解決する力”の強化に向け、ビジネスパートナーとの積極的な協業を実施中
- ビジネスパートナーの製品を当社の販売網に取り込むことで、幅広いソリューション提案が可能となり、また、ビジネスパートナーへ車体を供給することで、売上・収益を拡大

ラピタロボティクス(株)

- 自動フォークリフト「ラピタAFL」(右図)の国内販売で協業



Gaussy(株)

- 倉庫産業DXの実現をめざすGaussyとの資本提携契約を締結、倉庫ロボットの取り扱い拡大で物流課題の解決に貢献
- AMR引合増に伴い、浮上した課題を連携解決し、成約へつなげるべく活動中



(株)eve autonomy

- 屋外対応型の無人搬送ソリューション「eve auto®」に関する販売協業を開始
- 屋内外両方の自動搬送ソリューションをワンストップで提供
- 初受注を獲得、今後は屋内外をつなぐ幅広いソリューション提案を目指す



愛知機械テクノシステム(株)

- 小型AGVと無人けん引車を取り扱うことで品ぞろえを拡充し、両社協業のもと、無人搬送の複合システムによるトータルソリューションを提案
- 2025年6月より販売開始、提携先販路でのAGF拡販による相乗効果を狙う



(株)ハクオウロボティクス

- 当社製ウォーキー型フォークリフトを供給し、ハクオウロボティクス社はそのベース車体に同社開発のソフトを搭載
- 自動フォークリフト「Auto Fork」として販売開始。現場で使いやすく、より簡単に導入できる「Auto Fork」を広く提供することで、物流現場での自動化をサポート



1 3 . Topic 6 - 企業体質改善の継続と事業構造改革への挑戦

日本および米州における業務・システム統合の完遂

- 日本および米州では、業務および基幹システムの地域内統合を完遂するべく取り組んでおり、いずれも2026年度第二四半期での運用開始を予定

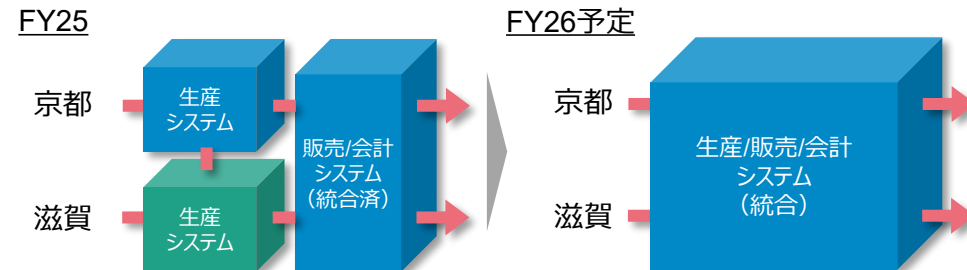
統合の全体像と取り組みの方向性

- 業務および基幹システムの最適化により、迅速な意思決定を支え、企業体質の強化と事業構造改革の推進に寄与

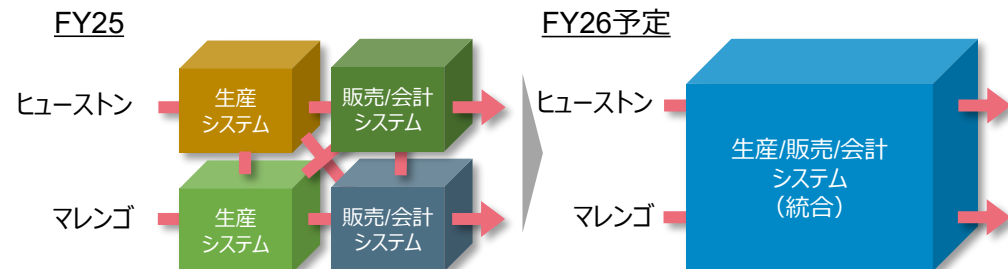


日本および米州の基幹システム統合

- 日本：基幹システム統合の最終段階として、モノづくり系システムを統合



- 米州：二流れにより複雑化している業務の簡素化・統合化を進めると共に、基幹システム群を刷新・統合

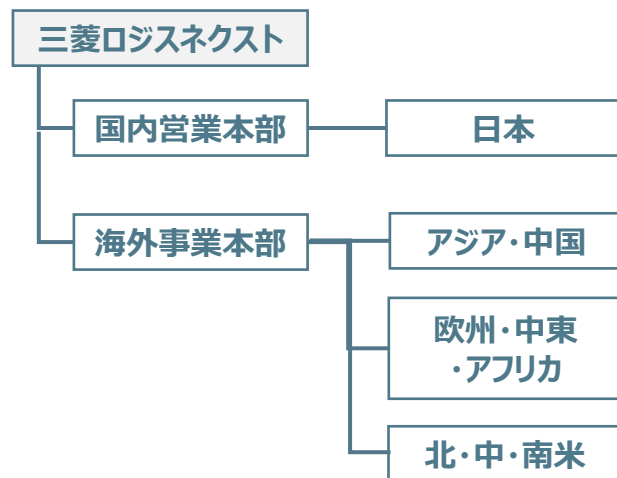


1 4 . Topic 7 - 企業体質改善の継続と事業構造改革への挑戦

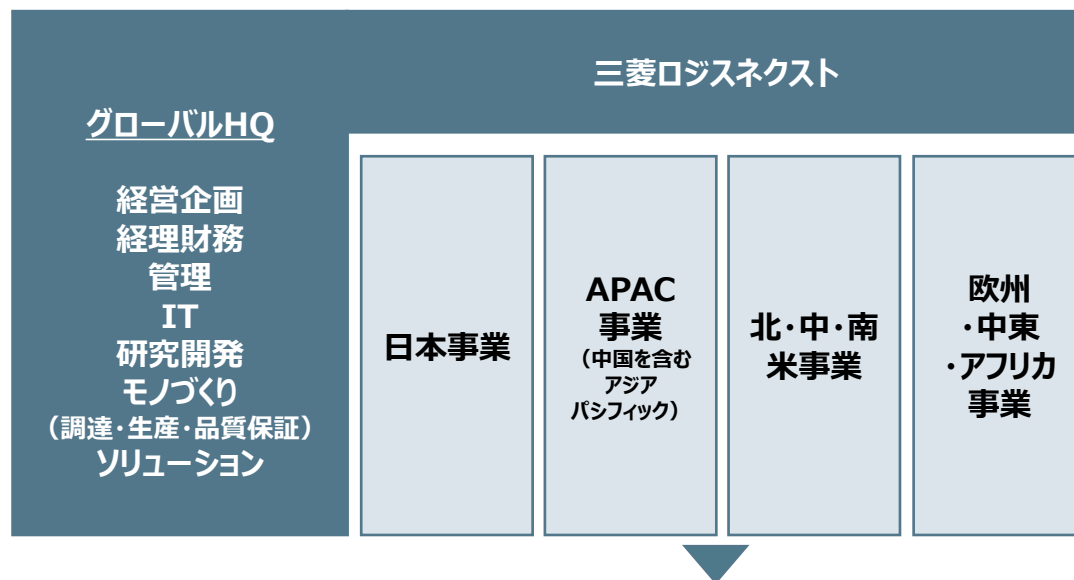
真のグローバル経営体制の構築

- 10月1日付で海外事業を「中国を含むアジアパシフィック」「北・中・南米」「欧州・中東・アフリカ」の大きく3つに区分し、「日本」事業も横並びの一地域として加えた「**4つの地域事業軸**」に明確化
- 一部組織（経営戦略室・財務本部）にはグローバルHQ機能を設置、各地域事業運営に横串を刺す
- 2026年4月には**グローバルHQに全機能軸を設置**しマトリックス・グローバル組織への完全移行を目指す

従来



再編後（2025年10月1日～）



4つの地域軸でグローバルでの事業展開を進める形に再編

協賛で得た知見・人脈を活用し、持続可能な未来を提示

- **テーマウィーク事業**に協賛し、「未来のコミュニティとモビリティ」、「健康とウェルビーイング」、「学びと遊び」、「地球の未来と生物多様性」の4テーマに係る企画会議に、若手社員が参加
- 10月6日～10月8日に開催された、「**Team Expoパビリオン**」に参加。ブース展示やステージ発表を行い、来場者へ持続可能な物流の実現に向けた取り組み事例などを紹介。来場者との交流を通じて、ロジスネクストの認知度向上及び企業パーパスなどを訴求
- 万博協賛を通じて獲得した知見や形成した人脈を最大限活用し、今後も地域貢献活動及び**サステナビリティ経営**をより一層推進していく

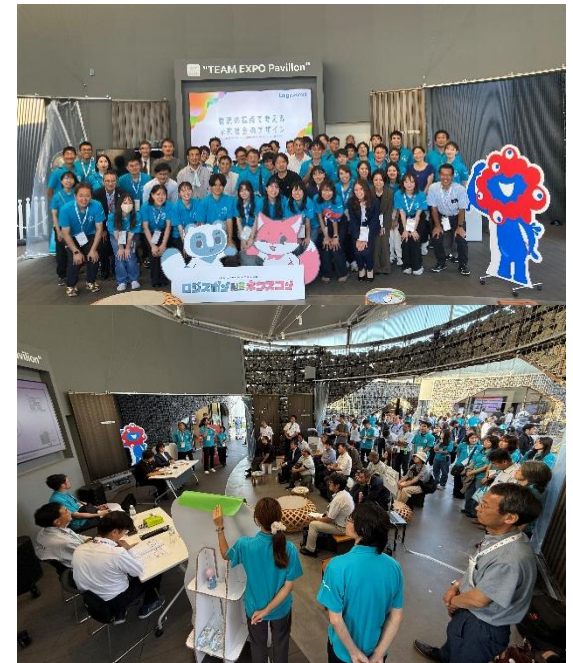
若手社員のプロジェクト参画



社外との人材交流・ビジネス交流



Team EXPOパビリオン



1 6 . Topic 9 - 企業体質改善の継続と事業構造改革への挑戦

脱炭素

『LT26』非財務目標に対する取り組み

- 『LT26』の非財務目標値達成を目指し、各指標に対する改善を進めている
- 働きがい改革を推進し、プラチナくるみんマークやえるぼしマーク、健康経営優良法人等の認定を取得

		指標	FY2024実績	『LT26』目標	取り組み
脱炭素	Scope1,2	排出量削減率*1	-33%	-33%	-
	Scope3-⑪	排出量削減率*1	-35%	-29%	
働きがい	エンゲージメント・モチベーション	仕事のモチベーション 活性職場数	偏差値50 41職場	偏差値52 32職場	・ プラチナくるみんマーク認定 ・ えるぼしマーク（2段階目）認定 ・ 「健康経営優良法人 2025（大規模法人部門）」認定
	働き方改革	有給休暇取得率	79.1%	80%	
	女性活躍推進	女性管理職比率 男性育休取得率	4.2%*2 65.7%	5% 60%	
	多様性の確保（採用）	女性採用比率 キャリア採用比率	30%*2 58%	30% 40%	

*1 対2017年の排出量削減率

*2 女性管理職比率・女性採用比率
については2025年4月1日付データ

プラチナくるみんマーク

- 「次世代育成支援対策推進法」に基づき、仕事と育児の両立支援に関して一定の基準を満たした企業に与えられる証
- 2025年7月7日付で「子育てサポート企業」として厚生労働省からプラチナくるみんマークの認定を取得



えるぼしマーク

- 「女性の職業生活に関する法律」（女性活躍推進法）に基づき、女性の活躍推進の取り組みが優良な企業に与えられる証
- 2024年8月5日付でえるぼしマーク(2段階目)の認定を取得



健康経営優良法人

- 2023年に制定した「健康経営宣言」に基づいた取り組み方針を策定。
- 経済産業省と日本健康会議が運営する「健康経営法人2025（大規模法人）」に2年連続で認定。



注意事項

- 本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 将来における弊社の業績が、現在の将来予測と異なる結果になる可能性があることを認識された上でご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示するものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

本資料に関するお問い合わせ

三菱ロジスネクスト株式会社 経営戦略室 荻屋・五十嵐

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1

TEL : 075-956-4419 FAX : 075-955-8993

URL : www.logisnext.com

Logisnext

三菱ロジスネクスト